

平成19年度
事業報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

目 次

I. 法人の概要	P1
1、設置する学校	P1
2、学部、学科	P1
3、当該学校・学部・学科等の収容定員数、学生数の状況	P2
4、役員、教職員等の概要	P3
II. 事業の概要	P4
III. 財務の概要	P12

I. 法人の概要

1、設置する学校

武蔵野美術大学
武蔵野美術学園

2、学部、学科

武蔵野美術大学

造形研究科 博士前期課程（修士課程）

美術専攻

デザイン専攻

博士後期課程

造形芸術専攻

造形学部

日本画学科

油絵学科

彫刻学科

視覚伝達デザイン学科

工芸工業デザイン学科

空間演出デザイン学科

建築学科

基礎デザイン学科

映像学科

芸術文化学科

デザイン情報学科

造形学部 通信教育課程

油絵学科

工芸工業デザイン学科

芸術文化学科

デザイン情報学科

武蔵野美術学園

造形芸術科

メディア表現科

3、当該学校・学部・学科等の収容定員数、学生数の状況

武蔵野美術大学

大学院、学部	専攻、学科	収容定員	学生数
造形研究科 博士前期課程 (修士課程)	美術専攻	56	112
	デザイン専攻	56	94
	小計	112	206
造形研究科 博士後期課程	造形芸術専攻	18	23
	小計	18	23
造形学部	日本画学科	150	155
	油絵学科 (～H17入学、編入学)	300	306
	油絵専攻 (H18入学)	240	245
	版画専攻 (H18入学)	40	44
	彫刻学科	132	146
	視覚伝達デザイン学科	424	442
	工芸工業デザイン学科	556	574
	空間演出デザイン学科	490	507
	建築学科	328	342
	基礎デザイン学科	296	306
	映像学科	330	363
	芸術文化学科	360	367
	デザイン情報学科	400	429
	小計	4,046	4,226
合計		4,176	4,455

武蔵野美術大学 造形学部 通信教育課程

学科	収容定員数	学生数
油絵学科	980	1,440
工芸工業デザイン学科	735	549
芸術文化学科	490	463
デザイン情報学科	735	648
合計	2,940	3,100

武蔵野美術学園

学科	収容定員数	学生数
造形芸術科	210	104
メディア表現科	190	55
合計	400	159

4、役員、教職員等の概要

・ 法人役員	
理事	9 名
監事	2 名
・ 評議員	24 名
・ 教職員数	
専任教員	134 名
客員教授	18 名
助手	53 名
非常勤講師	636 名
教務補助員	63 名
事務系職員 (臨時含む)	191 名

Ⅱ. 事業の概要

1 平成 19 年度重点課題

学校法人武蔵野美術大学は、前提となる本法人の既定の中長期的な計画を踏まえつつ、平成 19 年度事業計画を策定する上で、次のとおり五つの重点課題を設定した。

(1) 80 周年記念事業の展開

80 周年記念事業を広範な参加のもと、募金事業、建築事業、文化事業、大学史関連事業、奨学金事業を着実に進める。

(2) 建築計画大綱を中心とした建築事業の実施

大規模な工事としては次の事業を実施する。

- ・ 2 号館（仮称アトリエ棟）第 2 期工事
- ・ 環境保護を重視した 2 号館特殊排水工事
- ・ 美術資料図書館新棟新築および旧棟改修のための設計等
- ・ 6 号館及び鷹の台ホール A の耐震補強工事
- ・ 1 号館の事務室改修及び耐震補強工事
- ・ 旧三雲邸既存建築物の解体と教育研究施設としての三雲館の建設
- ・ 4 号館保存改修工事に先立つ関連工事

上記のうち、2 号館第 2 期工事及び美術資料図書館新棟新築および旧棟改修のための設計費については第 2 号基本金を充て、他は経常費を充てるものとする。

(3) 鷹の台キャンパスの拡充

小川町一丁目土地区画整理組合との協議に基づいて、鷹の台キャンパスの拡充を進める。具体的には土地区画整理組合と本学との間で鷹の台校に隣接する保留地について、平成 19 年度から 22 年度にかけて土地を購入する。

(4) 教育研究体制の充実

本年度より施行される特別任用専任教員の新任、新制度で 2 年度目となる客員教授の充実をおこない、本学の教育研究の水準にふさわしい専任教員体制の充実をはかる。

また、学校教育法等の改正に伴う准教授制度を実施するとともに、助教制度などの導入に向けた検討を行う。

(5) 入試制度の多様化

本学は平成 20 年度から従来の造形学部一般入学試験に加え、新たに全学科の募集人員の一部について「大学入試センター試験」を利用する選抜方法を導入する。また、平成 16 年度から映像学科、芸術文化学科において実施している公募制推薦入学試験について、平成 20 年度から新たに日本画学科、油絵学科、彫刻学科及びデザイン情報学科も実施することとなった。造形学部入試制度の多様化により、優れた資質や可能性を持つ人材を幅広く選抜することを目指し、広く受験生及び父母に対して広報活動を展開する。

2 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況

上記の重点課題に基づく事業計画とその進捗状況は次のとおりである。

(1) 80周年記念事業の展開

80周年記念事業実施本部会議において五つの記念事業（建築事業、奨学金事業、募金事業、文化事業・行事、大学史関連事業）について、その具体化に向けて検討を進めた。

①募金事業

平成18年度5月末から始めた事業の二年目として、校友、在学生父母、企業及び学内関係者に継続して協力を依頼し、募金活動を行った。平成20年3月末現在6億円の目標に対してほぼ50%の到達率である。

②建築事業

2号館の第二期工事が終了し、全面竣工を迎えた。また、次年度の着工に向けて、建築委員会及び美術資料図書館新棟旧棟分科会において美術資料図書館の設計等について検討を重ねた。

③文化事業

80周年記念文化事業の第一弾として大学院修了制作「∞MAUGEN展」を平成20年2月22日～26日に東京都美術館で開催した。「∞MAUGEN展」は80周年を迎える平成22年度まで継続して開催する計画である。美術系作品については、この他に平成20年の美術資料図書館、その他学内展示スペースでの展示及び学外での展覧会計画が確認された。また、平成21年の芸術祭期間中に朝日ホール（有楽町）で80周年記念式典等を開催する計画である。

④記念誌事業

80周年記念式典までに刊行する予定で編集作業を進めている。

⑤奨学金事業

80周年記念奨学金として平成21年度より創設する、大学院修士課程の学生を対象とした「奨励奨学金」及び海外の大学院に進学し研究活動を行う本学卒業生・修了生を対象とした「研究奨励奨学金」の制度化に向け、規則案の検討を進めている。

(2) 「武蔵野美術大学2004-2009建築計画大綱」を中心とした建築事業の実施

①2号館（アトリエ、工房、講義室等 延床面積12,000平米）の第二期工事が終了し、全面竣工した。

②新棟の平成20年度着工、平成21年度の竣工に向けて、美術資料図書館新棟新築及び旧棟改修のための設計等について、建築委員会及び美術資料図書館新棟旧棟分科会において検討を重ねた。

③鷹の台ホールAの耐震補強工事を行った。

④6号館の耐震補強工事及び研究室改修工事、2号館特殊排水工事、1号館の事務室改修及び耐震補強工事、三雲館関連工事及び4号館耐震補強・保存改修工事については、工事期間を繰り延べ、平成20年度以降の実施とした。

⑤その他次のとおり諸工事を行った。

- ・ 4号館保存改修に先立つ、4号館南側倉庫（第1・2倉庫）及び第1危険物倉庫の撤去
- ・ 1号館2階講義室改修

(3)鷹の台キャンパスの拡充

平成18年度に締結した小川町一丁目土地区画整理組合との土地購入契約に基づき、鷹の台校に隣接する保留地について、土地区画整理組合より平成19年度に3246.12平米を購入し、鷹の台キャンパスの拡充を進めた。

(4)教育研究体制の充実

①助教授の准教授への移行に伴う学則及び関連諸規則の一部改正

「学校教育法の一部を改正する法律」及び「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」の平成19年4月1日施行に伴い、本学学則・大学院規則及び関連諸規則を一部改正し、「助教授」を「准教授」に変更した。

②専任教員体制の充実

数次にわたる教育職員免許法改正に伴う「教職に関する科目」の増加や教育職員免許状更新講習開設に対応するため、教職課程研究室所属専任教員の採用計画を策定し、平成20年4月1日付で専任教員を1名増とし、専任教員体制の充実を図った。

③特別任用専任教員の採用

専任教員の多様な任用形態を可能にする制度として平成19年4月1日付制定された「武蔵野美術大学特別任用専任教員規則」に基づき、2名の特別任用専任教員が採用され、専任教員体制の充実を図った。

④客員教授の拡充

平成17年度7名、平成18年度13名であった客員教授について、平成19年度18名を採用し、客員教授の一層の陣容拡充を図った。

⑤ファカルティー・ディベロップメントの推進

本学の教育力向上を図るべく、教務学生生活委員会のもとに「ファカルティー・ディベロップメント専門委員会」を平成20年度より設置するために、教務学生生活委員会規則の改正について、教授会の審議を経て理事会で決定した。また、10月に「多様化する美大生—美術大学におけるFD」というテーマで全学研修会を開催した。

(5)教育職員免許状更新講習開設について

平成21年度から施行される教員免許更新制の円滑な実施に向けて、文部科学省が平成20年度に実施する教員免許状更新講習のプログラム開発とその試行に係る委託事業について、本学の計画が採択された。本学では、平成20年度に通信教育課程において更新講習を試行することになる。

(6)多様な入試制度の実施

受験人口の増加が今後とも見込めない社会情勢の中で、本学受験者の競争率の低下を防ぎ、優れた資質を持つ入学者を維持していくために、平成20年2月に実施した造形学部入

学試験より全学科でセンター試験を導入し、一般方式とセンター方式を合わせて 11,047 名の出願者を集めた（出願者数／募集人員で 11.9 倍）。また平成 19 年 11 月の公募制推薦入試において、映像学科及び芸術文化学科の 2 学科に加え、新たに 4 学科（日本画学科、油絵学科、彫刻学科、デザイン情報学科）で実施した。

入試に関し、学長のもとでの責任体制を明確にし、年間を通じた対応が可能となるように、入試に関する業務を統括する教員職の部長としての入試本部長を置くように規則上の位置づけを明確にした。

(7) 学生への支援

能登半島沖地震及び中越沖地震による罹災学生に対して、学費減免及び奨学金（緊急採用）の支援措置を講じた。また、麻疹感染について 8 名の罹患学生が確認されたが、出席停止処置等きめ細やかな対策を講じるとともに、ワクチン接種に要する経費について半額補助（教育実習生については全額補助）の支援を行い、休講等学事を変更することなく終息を迎えることができた。

(8) 文部科学省平成 19 年度「現代的ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」における 1 件の申請及び選定

平成 19 年度現代 GP に「EDS 竹・デザインプロジェクト」（持続可能な環境教育の推進）を申請し、選定された。平成 18 年度特色 GP に選定された「美術と福祉プログラム」、同現代 GP に「いわむろのみらい創生プロジェクト」（地域への貢献、広域型）及び「造形ファイル」（e-ラーニング）の 3 件と合わせて、美術系大学では最大の選定数となった。

(9) 大学基準協会による平成 20 年度認証評価のための自己点検・評価報告書の提出

平成 19 年度に第 3 期自己点検・評価委員会が実施した自己点検評価について、理事長及び学長に報告書が提出され、平成 20 年 3 月、平成 20 年度に認証評価を受ける大学基準協会に同報告書を提出した。

(10) 国際交流の推進

平成 19 年度新たに上海視覚芸術学院と交流協定を締結し、交流協定校を 19 大学（24 校）に拡大した。既に協定を締結している大学の中で新たな具体的交流として、シカゴ美術館附属美術大学との教員派遣協定、ベルリン芸術大学との交換留学協定を締結した。また、平成 20 年 3 月にはスウェーデン国立芸術大学（ストックホルム）で学生を交えたワークショップを実施した。

(11) 外部資金獲得の促進

本学の平成 19 年度私立大学経常費補助金交付額は、一般補助、特別補助等（教育研究高度化推進特別補助を含む）合計 7 億 366 万円（昨年度比 1 億 2 千万円増）で、研究設備整備費等補助金、施設整備費補助金、私費留学生修学援助費補助金、特色 GP 及び現代 GP の補助金を含めると 8 億 4,883 万円（昨年度比 1 億 4,348 万円増）となった。

また、美術資料図書館の建築計画に付随する助成金獲得と連動した「造形研究センター」事業について造形メディア研究センター検討プロジェクトにおいて検討した。

(12)研究費等管理運営規則の制定

外部の競争的資金等の使用に関して適正に管理及び運営するために、学校法人武蔵野美術大学研究費等管理運営規則を制定した。

(13)各部の取組

<法人事務部>

- ① 現代 GP「いわむろのみらい創生プロジェクト」について、平成 18～19 年度に実施した 16 のプロジェクトの成果を 3 月新宿 OZONE リビングセンターにおいて展示し、広く学外に情報発信した。
- ② 平成 19 年度現代 GP に申請した「EDS 竹・デザインプロジェクト」が選定された。
- ③ 平成 18 年度に取り組んだ産官学委託研究及び現代 GP「いわむろのみらい創生プロジェクト」の成果を 6 月のオープン・キャンパス、8 月の進学相談会（東京会場）において展示、また 8 月東京ビッグ・サイトで開かれたデザイン・コミュニケーションに出展した。
- ④ 大学史史料集としての金原省吾の個人日記の翻刻刊行について、5 月に第五集（昭和 9 年）を刊行した。

<企画部>

- ① 大学案内、学科紹介、MAU ニュース（年間 3 回）を発行するとともに、ホームページにはそれらの内容に加えて大学の諸活動等を掲載するなど、広く学外に情報を発信した。
- ② これまで就職課が発行していた「人 発見」に替え、広い範囲で活躍している本学卒業生の様子を伝える「maujin」を発行した。
- ③ オープンキャンパスの充実を図り、6 月 16 日、17 日に開催、昨年より大幅増の約 5 千名の来場者を集めた。
- ④ 7 月 1 日の大宮会場を皮切りに東京会場（8 月 13 日、14 日）まで全国 14 の会場で進学相談会を開催した。
- ⑤ 高校・予備校の要望の高まりに応え、高校の進路指導大学説明会や模擬授業、予備校主催の説明会などに幅広く参加した。また、小・中学生を対象とする「マナビゲート」に初めて参加した。
- ⑥ 公開講座（実技 1 講座、対談形式 4 講座）を開催、また校友会との共催で地域フォーラム・アート&デザイン「奄美」を実施した。
- ⑦ 銀座スペースデザインコンペ（銀座アートエクステンションスクール主催、東京 6 美大参加）において、本学は 4 つの企業賞を受賞した。
- ⑧ 第 4 回公共広告 CM 学生賞（公共広告機構主催、参加 20 校、応募作品数 118 点）において、本学は受賞 13 作品のうち、グランプリをはじめとして 3 作品が受賞した。
- ⑨ αM プロジェクト企画展をアートスペース KimuraASK（京橋）他 2 会場において年間 5 つ開催した。
- ⑩ 80 周年記念・大学院修了制作展「∞MAUGEN」展の第 1 回目を 2 月 22 日～26 日の会期

で東京都美術館において開催した。

⑪ 本学としては初めてとなるセンター試験を津田塾大学会場において、津田塾、白梅との共同で実施した。

<総務部>

① 重要書類等のセキュリティー保護に向け、昨年度の法人事務室、総務課、経理課に続き、学生生活課について機械警備を導入した。

② 長時間労働者に対して産業医との面談を実施、教職員のメンタルヘルス・ケアを講じた。

③ ホームページ等で公開する財務関連資料について、説明内容を充実させた。

<国際部>

① 交換留学について5校と実施（派遣4名、受入8名）、また10件（11名）の訪問教授を招聘、5名の外国人研究員（招聘1名、奨励4名）を受け入れるなど、海外との交流を進めた。

② 上海視覚芸術学院と交流協定を締結し、海外の大学との交流協定締結校は総数19大学（24校）となった。また、シカゴ美術館付属美術大学と教員派遣協定を締結し、ベルリン芸術大学との交換留学を平成20年度から実施することに決定した。

③ 海外への広報活動の一環として、英語版大学案内を更新刊行した。

④ 学内の各研究室が行う国際的な教育活動に対する国際交流プロジェクト（4件）及び学生による交流企画プロジェクト（2件）に対し、経費を補助した。

⑤ 留学生に対して面接を実施し、留学生の学習・生活状況他把握に努めた。

⑥ 留学生に対する国の学費補助の逡減状況が数年続いている状況の中、新たな授業料減免制度を実施した。

<教務部>

① 新カリキュラムにかかる卒業生へのアンケートを実施した。また、学生による授業評価アンケートを全学で実施した。

② 全学生を対象とした後期追加変更履修登録、WEBによる成績通知を実施した。

③ 博士後期課程研究紀要を刊行し、学位取得論文要旨を掲載した。また、研究発表展を開催、研究発表会を3回実施した。

④ 平成18年度特色GP「美術と福祉プログラム」を進め、2月8日～11日に新宿サテライトにおいて展示会を開催、3月末に2007年度報告書を発行した。

⑤ 1号館講義室の設備を充実させた。

⑥ 科学研究費補助金のルール改正に伴う更なる規則整備を行った。

⑦ 教員プロフィール集補遺版を刊行し、WEBに公開した。

<学生部>

- ① 平成 18 年度に実施した学生生活アンケートの集計・分析を学内の作業委員会で行い、10 月に学生生活実態調査報告書を発行した。
- ② 学生のニーズに対応できるよう臨床心理士の出校回数を増やすなど、学生相談室の体制強化を図った。
- ③ 課外サークル室の間仕切り工事を実施、不要物の整理も指導することにより防災上の課題を解消した。
- ④ 就職ガイダンス、進路・就職講座、職種研究会、個人面談、インターンシップを実施、「進路インフォメーション」を発行した。新たに企業とのワークショップ（短期）を導入、学生自身が登録するオープンエントリー型インターンシップについても登録者把握、研修結果報告の義務化を実施するなどその充実を図った。
- ⑤ 求人・企業検索等就職情報システムの円滑な運用に努め、就職情報ネット環境の一層の整備による的確な情報・サービスの提供を図った。

<通信教育課程>

- ① 学生に対し前年度に履修登録した授業科目について、授業評価アンケートを継続実施した。今年度で 4 年目を迎え、アンケート用紙のフォーム見直し、設問の見直しなどを行なった。
- ② 平成 18 年度に採択された現代GP「造形ファイル」の作成について、業務委託を含め陣容を強化して作成ファイル数を増加させ、平成 19 年度末に 100 の大台に乗った。また、11 月 23 日（金）にはシンポジウム「造形教育におけるメディア教材の役割」を開催し、現代GPの取り組み状況につき、広く学外者に情報公開した。
- ③ 造形文化科目・教職に関する科目担当教員懇談会を実施し、「通信教育課程この 1 年」及び「通信教育における実技指導の状況」について報告後、「添削指導上の諸課題」について討議、質疑応答の後、懇親会が行われた。
- ④ スクーリング受講生の増加に伴い、授業時に支障のないよう授業用機材の整備・充実を図った。

<美術資料図書館>

- ① 美術資料図書館新棟新築・旧棟改修に関する具体的検討作業を実施した。
運営委員会に美術館機能部会を設置、新美術館機能の検討及び提案、建築事務所との個別ミーティング等。
- ② 建築計画に付随する助成金獲得と連動した「造形研究センター」事業について造形メディア研究センター検討プロジェクトにおいて検討した
- ③ 美術資料データベースの新規システム（ミュージズ・テーク）の導入に係る条件の整備について検討し、マルチ画像システム MAE 導入による提供サービスを開始した。

- ④ 民俗資料データベースシステムの「ノーツドミノ」への乗り換え導入を行った。
- ⑤ 所蔵資料の画像データベース構築事業について新規サービス、公開データ数の増加、精度の向上に向けて検討した。
- ⑥ 美術資料図書館図書資料担当情報誌「カレオ」に美術館情報を組み入れ、新たな方向性にリニューアルした情報誌に一新し、「第8号」を刊行した。
- ⑦ 80周年記念文化事業・行事企画委員会にて計画される企画展の実施について検討した。
- ⑧ 平成19年度私立大学研究設備整備費等補助金の獲得について成果を挙げた。

以 上

Ⅲ. 財務の概要

●財務比率について

消費収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去4年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系19法人の平成18年度の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成19年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

		(単位:%)						
	比率	算式(×100)	評価	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	芸術系学部平均
1	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	12.7	13.1	14.8	12.6	7.0
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	88.9	86.0	83.8	81.7	77.2
3	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	0.6	0.7	2.9	1.1	0.8
4	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	5.2	7.6	7.1	8.2	8.4
5	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	48.3	47.0	46.9	48.1	53.8
6	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	31.0	31.5	30.1	30.8	28.1
7	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	7.9	7.8	7.8	8.2	8.8
8	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
9	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	12.0	17.2	15.3	14.3	14.3
10	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	11.1	8.3	8.7	9.7	11.6
11	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	54.3	54.7	55.9	58.9	69.7
12	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	99.1	104.9	100.6	102.0	108.6

貸借対照表関係財務比率

		(単位:%)						
	比率	算式(×100)	評価	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	芸術系学部平均
1	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	89.2	89.5	89.1	90.1	87.1
2	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	6.3	5.2	4.8	4.3	-0.7
3	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	87.0	88.1	88.5	88.5	100.8
4	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	82.6	83.8	84.5	84.7	93.7
5	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	77.6	78.9	78.9	79.7	87.8
6	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	42.0	44.1	48.2	50.4	56.5
7	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	35.6	34.8	30.6	29.4	31.2
8	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	22.4	21.1	21.1	20.3	12.2
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	369.2	356.7	317.6	347.5	193.6
10	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	60.5
11	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	4.8	4.5	4.2	4.1	6.6
12	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	6.1	5.9	6.7	5.8	6.3
13	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	10.8	10.5	10.9	9.9	12.9
14	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	12.2	11.7	12.2	11.0	14.9

(※) [評価] ↗ :高い値が良い ↘ :低い値が良い — :どちらともいえない
 総資金=負債+基本金+消費収支差額
 自己資金=基本金+消費収支差額